

令和3年度

川崎市立中学校
学習状況調査
報告書

川崎市教育委員会・川崎市立中学校長会

はじめに

川崎市教育委員会
教育長 小田嶋 満

令和という新しい時代を迎え、世界は大きく変わろうとしています。これからの時代は、「Society5.0」という言葉に象徴されるような今までとは大きく異なる世界になると言われています。そして、昨年来の新型コロナウイルス感染症拡大によって、身近な生活においてもキャッシュレス化・遠隔化・自動化・無人化等が一気に進み、今後もさらに加速度的に変化していくことが予想される中で、学校も変化への対応が強く求められています。

本市では、未来社会の創り手を育むかわさきの新しい教育「かわさき GIGA スクール構想」を掲げ、1人1台分の端末・高速ネットワークの整備を進め、子どもの学びは大きく変わろうとしています。授業で、1人1台の端末を用いて文章を共同編集し、考えを共有しながら学び合うなど今までにない光景が見られるようになってきました。しかし、ICTの活用はあくまでも手段であり目的ではありません。学習環境の変化によりどんなに学びが変化しても、重要なことは、子どもたちが、予測困難な新しい時代に必要となる資質・能力を身に付けていくことです。学習指導要領においては、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力をバランスよく育成し、知・徳・体にわたる「生きる力」を育成することが求められています。その実現に向けて、各学校では、育成を目指す資質・能力をもとに一人一人の学習状況等を評価し、そこから明らかになる学習指導上の課題等を、指導の改善へつなげていくことがより一層必要になってきます。

川崎市学習状況調査は、一人一人の子どもたちの学習や生活状況を把握し、より充実した授業づくり等にその結果を活用することを目的として実施しています。学習状況の把握については、令和3年1月に出された中央審議会答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』において、ICTの活用により、スタディログと言われる学習履歴を利活用し、個に応じた指導を一層重視していくことが打ち出されています。今後、子どもの興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供するために、個々の学習状況を把握するための学習データの重要性が一層高まってきます。

各学校におかれましては、本報告書を積極的に御活用いただき、学習状況を的確に把握・分析し、子どもたちにとって「どのような力が必要なのか」、「どのように指導の改善・充実を図っていくのか」について、学校全体で考え、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進し、1人1台端末を最大限活用することを視野に入れながら、教育課程全体の改善に取り組んでいただきますようお願いいたします。

結びに、川崎市学習状況調査の運営・実施に当たって御尽力くださいました「中学校現職教育委員会」をはじめとする川崎市立中学校長会の皆様に、厚くお礼申しあげます。

令和3年度「川崎市立中学校学習状況調査」のまとめにあたって

川崎市立中学校長会
会長 永野 直樹

今年度から新しい学習指導要領の全面実施となりました。各学校においては、社会に開かれた教育課程の理念のもと、GIGAスクール構想により整備されたICT環境を活用しながら、全ての生徒の可能性を引き出す個別最適化された学び、協働的な学びである「令和の日本型学校教育」の実現に向け、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの確立等にご尽力いただいているところと存じます。

この川崎市立中学校学習診断テストは、昭和43年度から市内の全中学生を対象に始まり、今年度は54回目の実施となりました。平成17年度からは、「かわさき教育プラン」に則り「川崎市立中学校学習状況調査」として実施され、2年生については「生活や学習についてのアンケート」も併せて実施しております。昨年度から続く新型コロナウイルス感染症拡大に対応して様々な制限がある中、本調査を継続して実施いただきましたことに感謝申し上げます。

各教科（国語・社会・数学・理科・英語）の調査につきましては、学習指導要領に示されている目標及び内容の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」についての学習がいかにかに生徒に定着しているかについて、各学年同一問題によって実施しています。そして、その結果を診断し、今後の学習指導の改善に役立たせるとともに、生徒自らが学習状況や学習課題の把握ができるようにすることを目的としています。このような趣旨に基づき、本報告書では各設問について分析・考察し、今後の授業改善の手立て等についてまとめております。また一昨年度から、各教科統一した形式の「経年観察およびその考察」のページを設けて、同類の出題に対しての正答率の経年変化を分析し、資質・能力の育成のための課題等を明確にしています。

各学校におかれましては、生徒一人一人の学習についての意識等を的確に把握し、教育課程の編成や1人1台端末の活用を踏まえた指導方法の改善を図るとともに、生徒の主体的に学習に取り組む態度や家庭での学習の在り方の改善に向けた基礎資料として本報告書を役立てていただければと存じます。

最後になりますが、学習状況調査の実施に際しまして、ご尽力いただきました、川崎市教育委員会、校長会現職教育委員会及び教育研究会の各教科部会、教頭会の皆様に心より感謝申し上げます。

目次

I 調査の概要

1. 調査の目的	5
2. 調査の内容	5
3. 調査の対象	5
4. 調査実施日及び調査実施人数	5
(1) 調査実施日	5
(2) 調査実施人数	5

II 調査結果の概要

1. 国語	9
誤答分析と学習指導上の考察	1 2
2. 社会	3 1
誤答分析と学習指導上の考察	3 4
3. 数学	5 1
誤答分析と学習指導上の考察	5 4
4. 理科	6 7
誤答分析と学習指導上の考察	7 0
5. 英語	8 9
誤答分析と学習指導上の考察	9 2

III 生活や学習についてのアンケート

調査の概要	1 0 9
調査結果と分析	1 1 1
単純集計	1 1 1
クロス集計	1 3 2
各教科の正答率との相関	1 4 1
資料 調査結果集計表	1 4 5

IV 問題用紙・解答用紙・アンケート質問紙

国語	1 5 8
社会	1 8 6
数学	2 3 2
理科	2 5 2
英語	3 0 0
生活や学習についてのアンケート	3 3 2

I 調査の概要

1. 調査の目的

学習指導要領に示されている各教科（国語・社会・数学・理科・英語）の目標および内容の「基礎的・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」について学習したものが、いかに生徒に定着しているかを全市一斉に学年ごとの同一の問題によって調査する。そして、その結果を診断し、今後の学習指導の改善に役立たせる。また、生徒自らが学習状況や学習課題の把握ができるようにする。

2. 調査の内容

○ 国語・社会・数学・理科・英語

調査の目的に基づき、学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容の基礎的・基本的な事項について、各教科の出題範囲に基づいて、全学年を対象とする調査を実施した。

○ 学習意識調査（生活や学習についてのアンケート）

生徒の生活や学習に対する意識等について明らかにするために、第2学年の生徒を対象とする調査を実施した。

3. 調査の対象

市内全市立中学校の全学年の生徒

4. 調査実施日及び調査実施人数

(1) 調査実施日 令和3年11月9日（火）

(2) 調査実施人数

中学校 第1学年	9,867人
中学校 第2学年	10,168人
中学校 第3学年	9,893人

Ⅱ 調査結果の概要

※各教科の「主な誤答と分析」の数値に関しては、小数第1位を四捨五入し整数で示しているため、合計が100%にならないことがある。また、「主な誤答」に関して、全ての解答類型が示されていない場合がある。

